

中国における少数民族教育文化背景の民族的差異

学校教育開発学コース（客員研究員） 王 錫 宏

The ethnic difference of the cultural background of education for national minorities in China

Xihong WANG

The complexity of the cultural background of education for national minorities is an important formative factor of the complexity of education for national minorities. Only disclose the complexity of the cultural background of education for national minorities could fundamentally know and understand the essence and characteristic of education for national minorities. The study of a cultural background of education for national minorities is an important subject of research of education for national minorities.

This paper compare between the cultural background of education for national minorities and the cultural background of education for national majorities. Put forward the ethnic difference's concept of the cultural background of education for national minorities. Describe the ethnic difference's contents and forms in distribution and types and grade and multi-media of education for national minorities. Explain objective basis of complexity of the cultural background of education for national minorities. Make complete theory of the cultural background of education for national minorities in china.

目 次

はじめに～少数民族教育の文化背景の民族的差異の概念～

第1章 異なる空間分布の少数民族教育の文化背景の民族的差異

第1節 微視的文化背景と中視的、巨視的文化背景との民族的差異

第2節 微視的、中視的文化背景と巨視的文化背景との民族的差異

第2章 異なる類型の少数民族教育の文化背景の民族的差異

第1節 少数民族の学校教育と家庭教育および社会教育との文化背景の民族的差異

第2節 少数民族家庭教育と学校教育および社会教育との文化背景の民族的差異

第3節 少数民族学校文化と所属する地域文化との民族的差異

第3章 異なるレベルの少数民族教育の文化背景の民族的差異

第4章 少数民族教育の文化背景構成の民族多元性と文化背景の民族的差異

第1節 少数民族学校外部の文化背景が構成された

民族多元性と文化背景の民族的差異

第2節 少数民族学校内部の文化背景が構成された民族多元性と文化背景の民族的差異

第5章 情報システムが伝播された文化と民族の地域的文化的文化との民族的差異

おわりに

はじめに～少数民族教育の文化背景の民族的差異の概念～

世界のいかなる国、いかなる民族のタイプとレベルの教育においても、みな一定の文化背景の下で教育が行われている。少数民族も例外ではない。文化背景は、「人間の心身の発展と個性の形成において影響を与える物質と精神の文化環境」¹⁾という文化学の理論に基づき、異なるタイプとレベルに分けることができる。

少数民族教育の文化背景の特殊性は、各少数民族教育の文化背景の特殊な本質に現れているだけでなく、各少数民族の教育の文化背景の間にも表れている。特に「主体民族(以下、マジョリティと呼ぶ)」²⁾教育の文化背景や、国家のマクロ的な文化背景との関係に表れている。この二つの特質は、少数民族教育の文化背景の特殊性をかたちづくっている。これは少数民族教育

の本質と法則が存在するよりどころとなっている。

少数民族教育の文化背景の民族的差異は、各少数民族の教育文化の背景それ自体の本質やタイプの差異に関する概念でもなく、各少数民族の教育文化背景とマジョリティの教育文化背景の本質やタイプの差異に関する概念でもない。少数民族教育の文化背景とマジョリティ教育の文化背景や国家のマクロ的な文化背景との関係、および各少数民族の教育文化の背景との間に関係する概念である。少数民族教育の異なる空間での文化背景および異なるタイプとレベルの少数民族教育の文化背景は、マジョリティ教育の文化背景の民族同一性と違い、しばしば民族性の差異あるいは民族の立場との本質的な不一致を表している。少数民族教育の文化背景の民族的差異は、マジョリティ教育の文化背景の民族同一性または民族の立場における本質的な一致に対応する概念である。マジョリティ教育の文化背景の民族同一性や民族の立場における本質的な一致は、中国全体から見れば、同一民族の文化背景下における区域性と地域性の差異であり、異なる民族間の民族性の文化差異ではない。よって、民族属性からいえば本質的には同じであるが、少数民族はそうではない。少数民族教育の異なる空間、タイプとレベルの文化背景には、区域性と地域性の差異だけではなく、異なる民族文化間の違いと区別をも表現している。

第1章 異なる空間分布の少数民族教育の文化背景の民族的差異

少数民族教育の文化背景の民族的差異の基本内容を述べる前に、本章の基本的視座を説明したい。ここでは中国での類別に基づき、中国教育の文化背景を空間的に微視的、中視的、巨視的の三つの次元に分類する。微視的は県と県以下の行政区域の文化背景をさし、中視的は省、自治区レベルの文化背景をさし、巨視的は国家全体の文化背景をさす。ほとんどのマジョリティにとって、この三つの空間文化次元の教育文化背景は民族属性から見えて一致している。つまり、同じ漢民族の文化背景（正確には漢民族を中心とした各民族共同の文化背景）に属し、同じ漢民族の言葉と文字を使用している。この三つの空間の教育文化の背景の差異は、主に同じタイプの文化の異なる区域文化の違いである。

筆者の故郷山東省諸城県、青年時代を過ごした遼寧省東溝県と、現在住んでいる北京市海淀区を例にして見よう。筆者の故郷山東省諸城県は、十数平方キロメートルの県に独特の文化を培っている。しかしこの文化

は、済南市を代表とする山東省の区域文化とは民族性の面では一致しており、その差異は区域性であって、民族性ではない。青春時代を過ごした遼寧省東溝県は黄海の海辺にあり、遼寧省の中でも有数な肥沃な地である。東溝の区域文化には「牡蠣臭さ」と「もみの香り」が充満している。遼寧省全体の区域文化との関係や差異は主に区域的な差異であり、異なる民族間の差異ではない。現在住んでいる北京市海淀区の教育文化の背景と北京市の文化背景は、民族性において一致している。この両県一区の教育の文化背景を巨視的空間でさらに拡大すれば、全国の巨視的文化背景となる。さらにこの両県一区の微視的教育の文化背景は、全国の巨視的文化背景の主な差異においても区域性や地域性の差異であり、民族性ではない。少数民族教育は漢民族よりはるかに複雑で、その教育の微視的、中視的、巨視的文化背景にはしばしば複雑な民族的差異が存在している。以下、二つにタイプをあげてみたい。

第1節 微視的文化背景と中視的、巨視的文化背景との民族的差異

この差異は、主に非自治区の各少数民族自治県(旗)³⁾の教育文化背景に表れている。これらの少数民族自治県では少数民族人口がある程度の割合を占めており、少数民族教育の文化背景においても少数民族文化がかなりの比重を占めている。このような意味において、これらの県の少数民族教育の文化背景はある程度の民族性を持つといえる。

しかしながら、これらの県が属する省では漢民族が大多数で、少数民族の比率は低い。これらの省の区域文化背景は、少数民族的な要素も含んでいるが、比率が低いことから主に漢民族の文化が中心となっている。自治県範囲の少数民族文化背景と省範囲の漢民族を中心とする文化背景の間には民族的差異が存在し、全国範囲で見ても、漢民族を中心とする多民族共同文化背景とこれらの自治県範囲の文化背景には一定の民族的差異が存在している。

吉林省の長白山朝鮮族自治州、黒龍江省の杜爾伯特モンゴル族自治州と、雲南省ワ族自治県を例にしてみよう。これらの県の朝鮮族教育、モンゴル族教育およびワ族教育は、ともにその微視的文化背景(本自治県の文化背景)では朝鮮族、モンゴル族、およびワ族の文化要素を中心に構成されており、一定の民族性を持っている。しかし、それらの民族が属する中視的区域文化背景、すなわち省の文化背景は、それぞれ漢民族を中心とした多民族共存の吉林省、黒龍江省、雲南省を

文化背景⁴⁾としている。全国範囲で見れば、この三つの県の少数民族教育の微視的文化背景と中視的省範囲の文化背景、全国の巨視的文化背景の間にも一定の民族的差異が存在する。これらの差異がもっとも明瞭に表されているのが言語である。微視的な教育の文化背景は、これらの少数民族自身の言語文化区域となっている。この小さな文化区域で少数民族は、主に自民族の言語を使用している。中視的と巨視的文化背景では、主に漢民族の言語を使用している。

第2節 微視的、中視的文化背景と巨視的文化背景との民族的差異

地域的な文化背景の差異は、もっぱら少数民族自治区の範囲に属する各少数民族自治県に表われている。チベット自治区は、中国で少数民族が占める割合の一番高い自治区である。少数民族人口は全自治区人口の95%以上にのぼる。そのうち90%以上はチベット族、そして少数のメンバ族およびロツバ族であり、漢民族人口の割合はただ5%にすぎない。人口要因のほかに、この自治区では青藏高原という地理的障壁もある。他の自治区と比べると、チベット自治区における少数民族の文化成分の占める割合がトップである一方、漢民族文化からの影響が比較的少ない。つまり、チベット自治区では、教育の文化背景が主にチベット文化に拠っているといえる。チベット自治区の地域文化背景は民族性の面で基本的に一致しており、チベット人を主とするチベット各県における教育の微視的文化背景と自治区における中視的文化背景との間には、かなりの一致が見られる。他の自治区における中視的文化背景で、

漢民族あるいは別族が占める文化の割合はチベット族より多い。つまり、微視的文化背景と中視的文化背景の民族の側面における一致の度合いはチベット自治区より低いのである。このことは、チベット自治区における教育の文化背景の主たる特徴であり、チベット教育の改革と発展をなしとげるには、この特徴を十分に把握する必要がある。

しかし、全国的に見れば、チベット自治区各県の教育の文化背景の「チベット性」、およびチベット自治区におけるチベット族を主とする中視的文化背景の全体と、全国の各民族の共有的な巨視的文化背景との間には、ある程度の民族的差異が生じている。総じて、マジョリティ教育の文化背景にある様々な空間における文化差異は、地域的差異にある。また、少数民族教育の空間における各文化背景の差異は、地域的差異及び民族的差異と共存するのがしばしばである。これは少数民族教育における文化背景の地域性の主たる特徴といえる。

全国的に、遼寧省、黒竜江省、吉林省、上海市、北京市、河北省、河南省、山東省、山西省、陝西省、福建省、江蘇省、浙江省、江西省、広東省などの少数民族成分が比較的少ない省では、省教育の文化背景と巨視的文化背景との差異が主に地域性に見られる。その一方、チベット、新疆省、内モンゴル省、寧夏省、広西省などの自治区における少数民族教育の文化背景は、巨視的文化背景との間に民族的差異と地域的差異が共存している。中には、民族的差異が顕著な省もある。

いわゆる異文化教育というものは、「ある環境で育ってきた生徒が言葉、風俗、習慣、価値観および信仰が

図1 微視的文化背景と中視的および巨視的文化背景の民族的差異

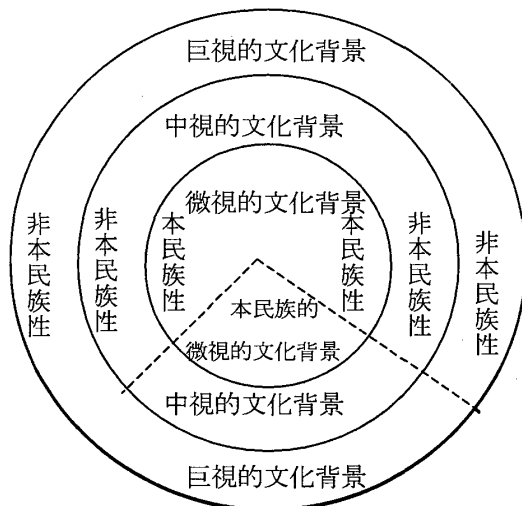


図2 微視的および中視的文化背景と巨視的文化背景との民族的差異

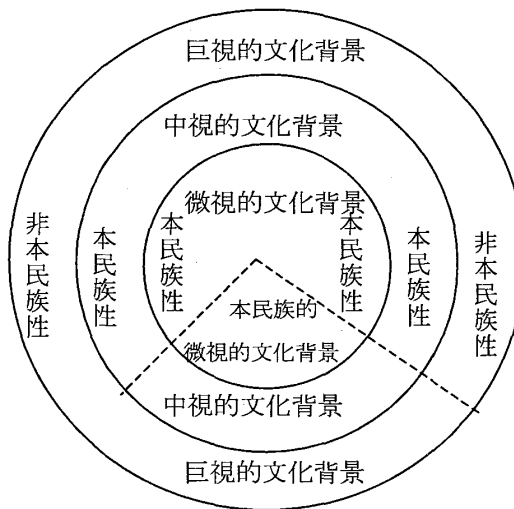
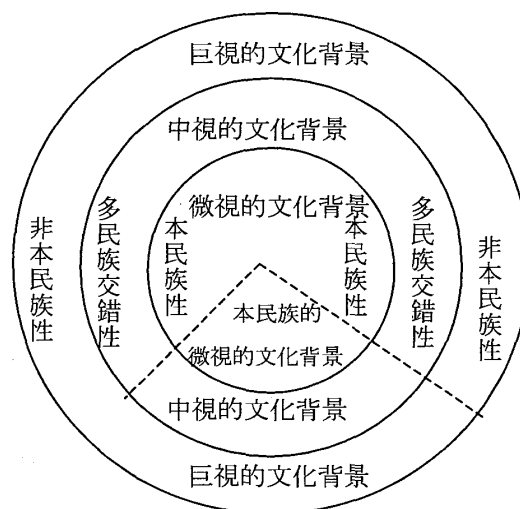


図3 微視的文化背景と中視的文化背景および巨視的文化背景との民族的差異



まったく違う別の文化環境に入って教育を受けること、あるいはもっぱら異なる地域文化の環境を設定して、生徒に非所属民族の言葉や風俗、習慣、価値観などを教えること」⁵⁾をさす。たとえば漢民族においては、別省出身の生徒が東部沿海の発達している地域に入り教育を受けることが、出身地の異なる地域での文化を変えることにつながるが、その文化における民族の性質が環境の変化によって変わることがないため、異文化的な問題が生じない。だが、少数民族の場合は違う。彼らが所属する民族の文化環境を離れて東部の発達地域で教育を受けるということは、地域文化のみならず、民族文化の変更ともなりうる。ある民族の文化背景から別の民族の文化背景に入ることは、異文化問題が生

じることとなる。少数民族教育の空間における各文化背景の差異は、少数民族の異文化特性においては決定的な要素となる。図1～図3は、少数民族教育における異空間での文化背景の民族的差異を表すグラフである。

第2章 異なる類型の少数民族教育の文化背景の民族的差異

教育学理論によると、教育は学校教育、家庭教育、社会教育の三つのシステムからなるという。マジョリティにとって、同じ地域におけるこの三つの教育システムの文化背景は基本的に一致している。北京と上海

の例をあげてみよう。北京と上海の人口のほぼすべてを占める漢民族にとって、家庭教育、学校教育、市区の社会教育とその文化背景は全体的に一致しており、民族的差異はほとんど存在しない。中国全体のほぼすべての漢民族にとっても同じである。しかし、少数民族にとっては、同じ地域の学校教育と家庭教育と社会教育との間には、ある程度の文化背景の差異がしばしば生じてくる。

第1節 少数民族の学校教育と家庭教育および社会教育との文化背景の民族的差異

少数民族の居住地で行われる学校教育(小学低学年を除く)の授業では、その居住地、その民族なりの知識をある程度含んでいても、漢民族を中心とする中国の各民族に共同的な科学文化知識を主体としている。別言すれば、学校で教授されるものは、主に漢民族を中心とする各民族の共同的な要素を含む文化背景が投影されており、ある地域での民族の文化背景が主要な役割を果たすことはない。学校で教授される科学文化知識に反映されている漢民族を中心とする各民族の共同的な文化背景と、少数民族の居住地にある学校の民族的な文化背景との間には、ある程度の矛盾と差異が存在している。一方で、居住地の少数民族の家庭教育と社会教育はその民族なりの文化を背景に行われている。言い換えれば、少数民族の居住地において、彼らが受けている学校教育システムの文化背景と、家庭教育システムおよび社会教育システムの民族的な文化背景との間には民族的差異がある程度存在しているのである。

1995年7月20日から25日まで、北京で行われた「新世紀中国民族教育理論と実践シンポジウム」では、少数民族地域の学校教育と社会教育が、文化背景と文化価値観において、ある程度の民族的差異と衝突が生じているという問題が取り上げられた。この問題をめぐって多くの議論がなされ、矛盾と衝突を解決できる理論と対策が提案された。その提案をふまえて、筆者は現代科学知識と多民族共同の文化知識の伝授を主とした現代学校教育が、伝統的な文化背景を主とした家庭教育、社会教育との間にある文化背景および文化価値観における矛盾と差異と、学校教育にある非民族性と居住地の文化環境における民族性の差異を生じさせ、ある民族地域、特に周辺地域の少数民族の学校教育における困難さと複雑さ、特殊性を現出させる源泉であると考えた。文化の民族性、時代性、科学性という原則の下で、これらの地域的な現代学校教育と、家庭教育およ

び社会教育との相互統一や促進がなしとげられるべきではないだろうか。改革と発展は、すべてこの三者の統一の中にあるといっても過言ではない。事実、すでに成功した地域と民族もある。

第2節 少数民族家庭教育と学校教育および社会教育との文化背景の民族的差異

この文化背景の差異は主に散居区に見られる。散居区の少数民族学生の大部分がマジョリティを主とする現地の学校に通っている。現地の地域教育もマジョリティの文化背景を主としているが、彼らの家庭教育では彼ら自身の民族性を文化背景としている。それゆえに、家庭教育と地域教育のマジョリティとの間に民族的差異が生じる。

中央民族大学を例にあげてみよう。同校の少数民族教職員の家庭教育の文化背景は、彼らの出身民族に拠っている。彼らは家庭で、出身民族の言葉を話すこともしばしばあり、その程度は人によって異なるが、自身の出身民族の生活習俗を保っている。だが、彼らが所属している北京市の地域教育システムの文化背景は、漢民族を主体とした各民族共同の文化で、同校の少数民族教職員の家庭教育の文化背景とは異なる。反対に、中央民族大学の漢民族教職員の家庭教育は少数民族教職員とは対照的である。彼らの家庭教育と北京市の地域教育システムとは、文化背景において民族性が一致しているからである。同校の少数民族教職員の子どものほとんどは、中学校から高校まで、北京の漢民族を主とする学校に通う。学校の文化背景は彼ら自身の出身民族の文化とは違うが、同校の漢民族教職員の子どもの家庭教育の文化背景は学校教育の文化背景と一致している。

第3節 少数民族学校文化と所属する地域文化との民族的差異

同じく中央民族大学を例としたい。同大学は多民族が集中している点に特徴があり、多民族文化の縮図のような大学である。したがって、ここでは多民族文化が「校庭文化(=学校文化)」となる。中央民族大学が所在する北京地区は、漢民族を主体とする多民族の共同文化を主としている。同大学の「校庭文化」は、北京地区の文化とある程度の民族的差異がある。同市にある北京外国語大学は、中央民族大学と文化背景の差異が明瞭であり、北京外国語大学の「校庭文化」と北京地区文化との間には民族的差異がない。

各自治体で催されたチベット出身の学生のためのク

図 4 文化背景における少数民族の学校教育と家庭教育、地域教育が教授する文化知識の民族的差異（聚居区）

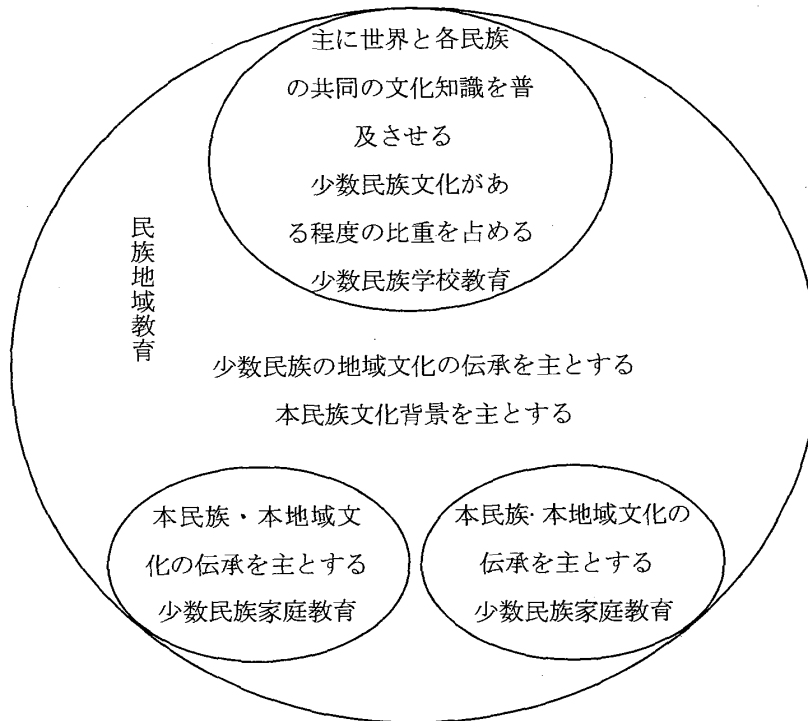


図 5 文化背景における少数民族家庭教育と学校教育および地域教育が教授する文化知識の民族的差異（散居区）

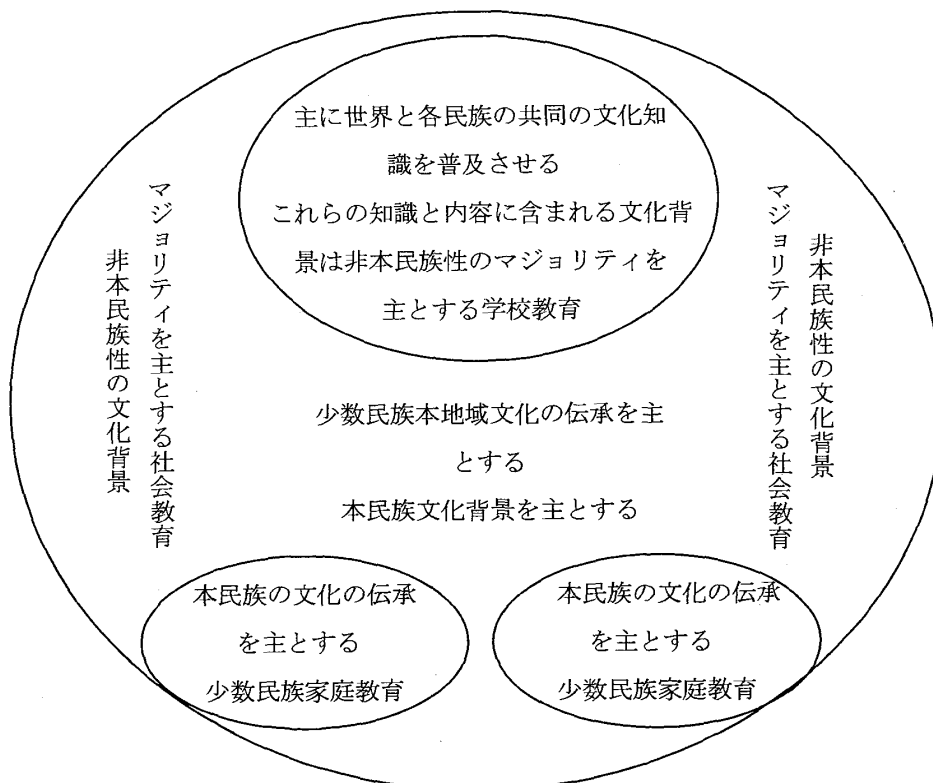


図6 文化背景における少数民族家庭教育と学校教育と地域教育が教授する文化知識の民族的差異（散雑区）

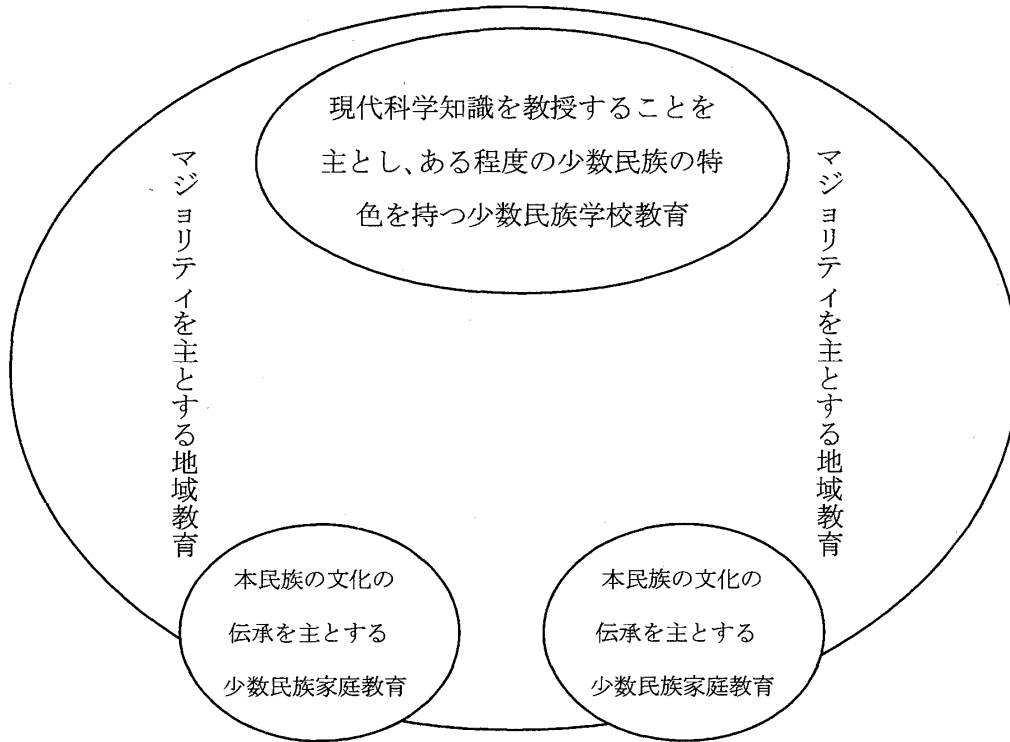
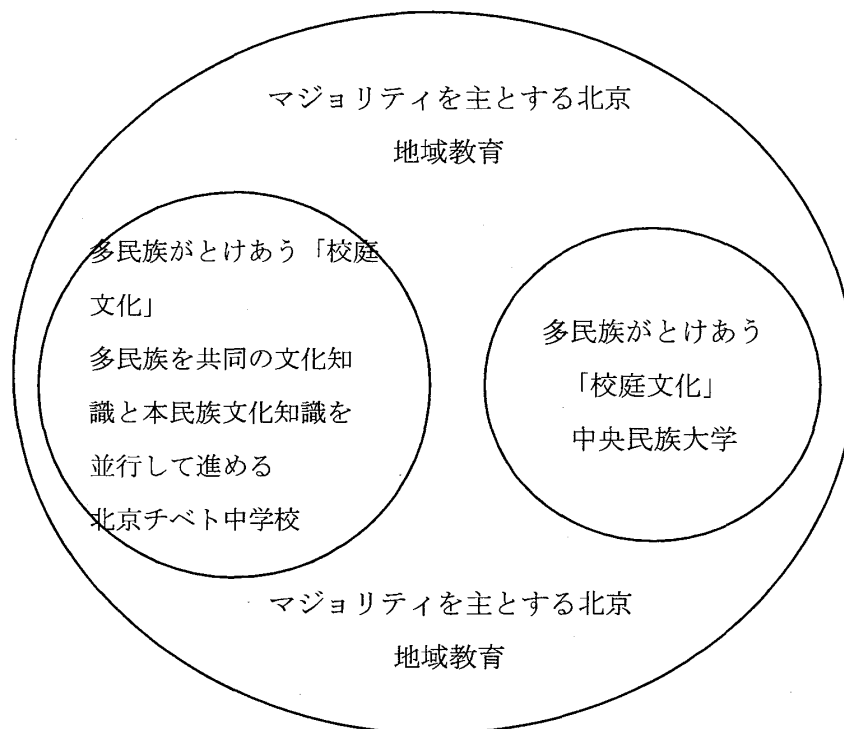


図7 少数民族の学校教育と地域教育の文化背景の差異



ラスである「チベット班」、北京のチベット中学校および漢民族を主とする地区で催された各ランクの民族学校には、それぞれの少数民族学校教育に属する地区文化との差異が現出する。

第3章 異なるレベルの少数民族教育の文化背景の民族的差異

中国では、少数民族の学齢前の教育、小学校教育、中学校教育は主に民族地域で行われる。これらの各段階の教育の地域文化背景は、少数民族のものを主としている。ただし、少数民族の高等教育は、主にそれぞれの自治区の区都で行われる。そして、一部の民族学院と民族大学は漢民族を主とする大都市に設けられている。民族地域の高等学府の所在地の区域文化は多民族的な融合性が高く、少数民族と漢民族はそれぞれ一定の比重を占める。大都市の民族学校の所在地の区域文化背景は、主に漢民族を主とする多民族の共同文化である。以上から分かるように、低いレベルの少数民族教育と高いレベルの少数民族教育とは、所属地域の

文化背景においてある程度の民族的差異が見られる。

興味深いことに、この特徴は日本の教育文化背景にも現れている。在日朝鮮人の学齢前の教育、小学校教育、中学校教育は主に朝鮮族が多く居住している大阪、福岡、広島、京都などで行われる。在日朝鮮人の朝鮮大学校は、日本の民族文化が凝縮されている東京にある。

低いレベルの少数民族教育ほど文化領域にまたがる要素は減り、高いレベルの少数民族教育ほど文化領域にまたがる要素が増える。各民族のとけあうレベルが高ければ高いほど、民族の改革、解放、進歩が推進される。

レベルの違う少数民族教育は、文化背景のある程度の民族的差異によって決定される。各レベルの少数民族教育の間には、普通教育と同じように内容の関連が必要であり、段階性と連続性のほかに、普通教育とは異なる文化背景の繋がりや調節の問題もある。少数民族の学生が本民族(=出身民族)の文化地域を離れ、漢民族文化を主とする発達した東部沿海地域の町と大都市の高等学校や民族学校で勉強することは、文化背景

図8 少数民族教育（学校）の外部文化背景が構成された民族多元性と民族的差異

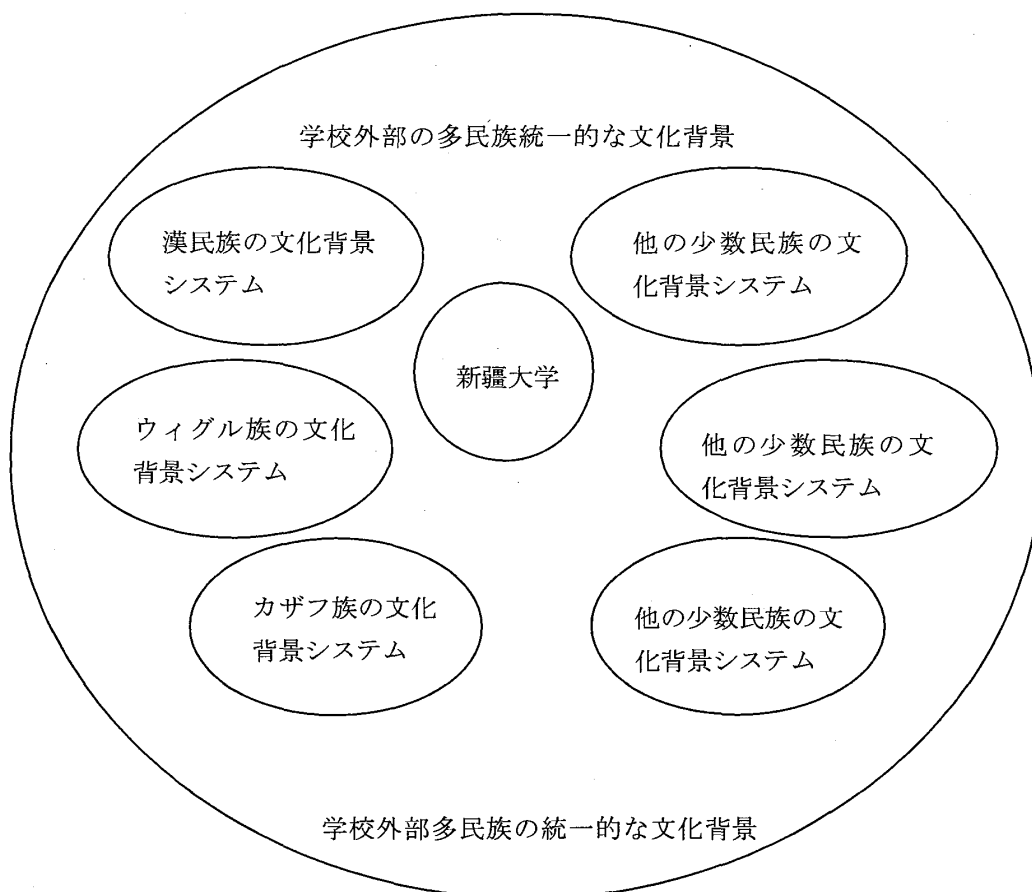
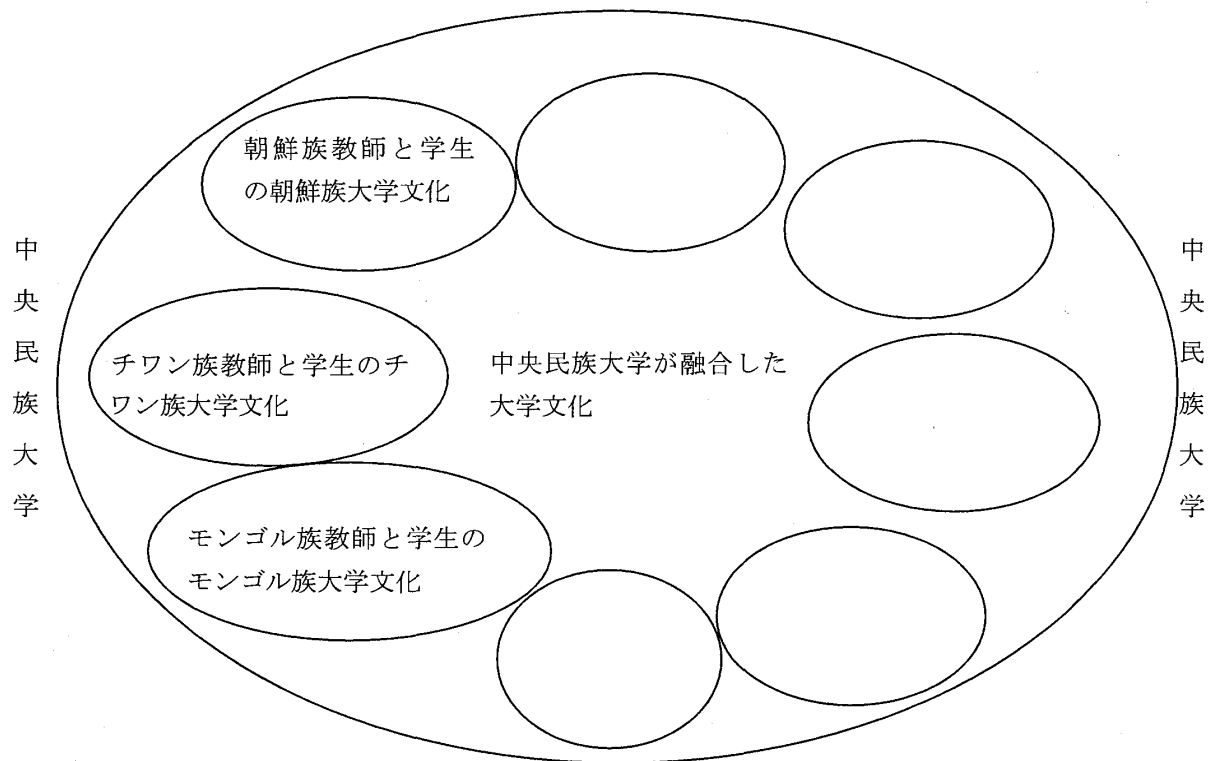


図9 同一少数民族教育の学校内部文化背景が構成された民族多元性と民族的差異



の違いが大きいゆえに、文化環境と文化背景の適応問題が重要となる。このような関連と適応は、直接的に民族教育の効果と優劣の程度に関わることになる。文化知識内容とレベルの関連だけに注視し、文化背景の適応を疎かにすることは妥当ではないと思われる。

第4章 少数民族教育の文化背景構成の民族多元性と文化背景の民族的差異

このような文化背景に構成された民族多元性と文化背景の民族的差異は、主に以下の二つの方面に反映されている。

第1節 少数民族学校外部の文化背景が構成された民族多元性と文化背景の民族的差異

雲南省を例としてあげてみよう。雲南省の少数民族学校外部の文化背景は、24の民族の文化背景から構成されたもので、中には漢民族文化が高い比率を占めているものもある。

中国のほとんどの省は多民族で構成されているため、省の文化の背景は多くの民族文化システムから構成されている。このような多民族的な省で、各民族の文化システムとその省の多民族的な文化背景との間に、省

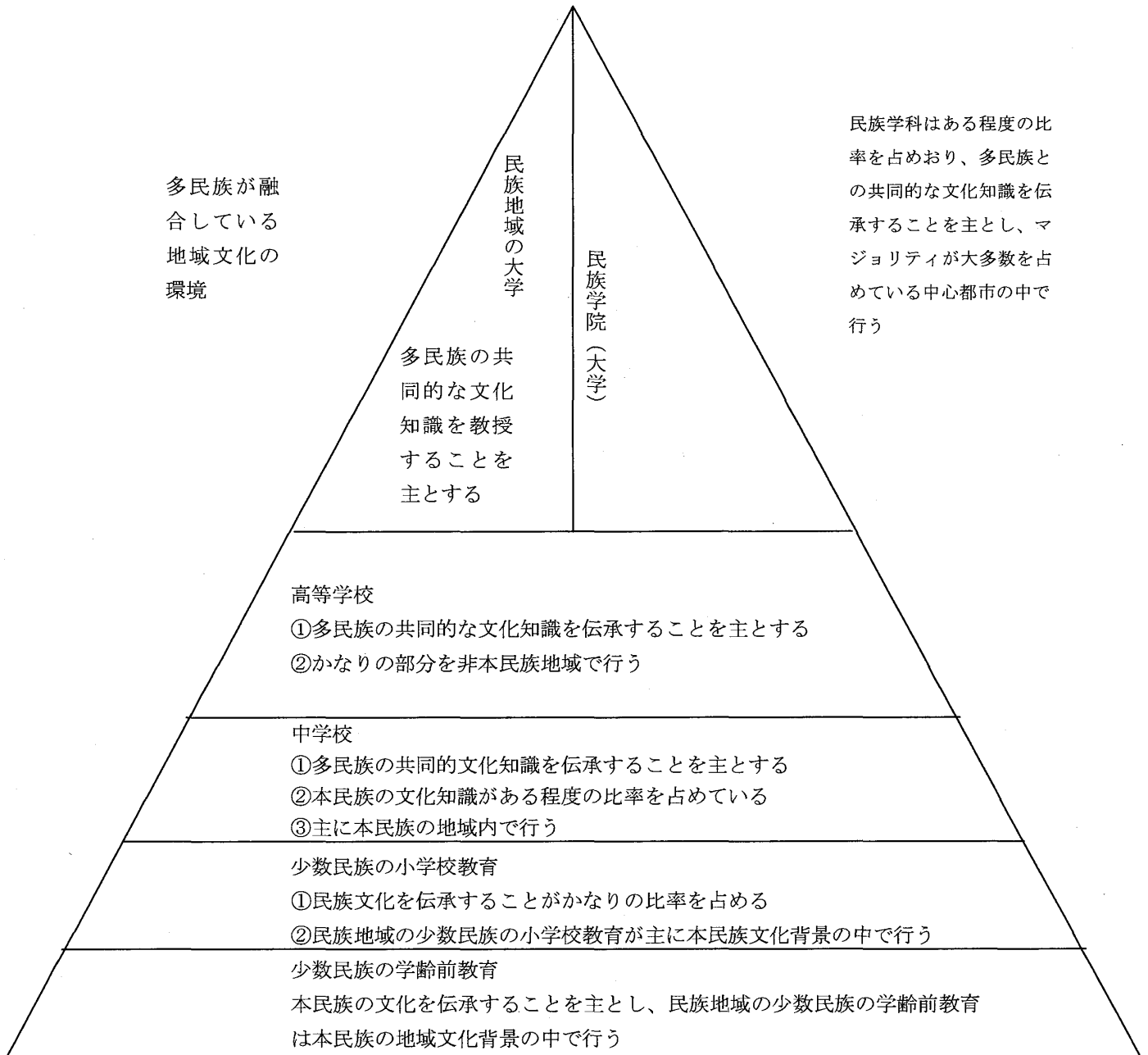
の多民族的な文化システムと統一された多民族共同的な文化背景との間に民族的差異が存在するのである。

多民族地域の少数民族学校の外部文化環境も同様である。例えば、雲南省シーサンパンナ民族師範大学の外部文化環境はタイ(傣)族、漢民族など、多数の民族文化システムから構成されている。これらの各民族文化のシステム間および地区多民族的な文化システムとの間に統一された多民族の文化背景の間には、ある程度の民族的差異が存在するのである。

第2節 少数民族学校内部の文化背景が構成された民族多元性と文化背景の民族的差異

中国では、さまざまな民族地域にさまざまな民族が住んでいる。大部分の民族地域の管理者、教育実践者および教育を受ける人は当地の各民族の人間から構成されている。各民族の人間は本民族の独特な文化を保持している。これは、同じ地域において少数民族教育内部に異なる民族文化を持っている人も含まれていて、少数民族教育内部の各民族は独特な本民族の文化背景を持っているのである。このような少数民族教育内部の多民族的な民族文化システムの間には、またこれらの民族文化システムと同一地域の少数民族教育内部の各民族の共同的な統一文化背景の間には、ある程度の民族

図10 異なるレベルの少数民族教育の伝承した文化知識が含んでいる文化背景と地域文化背景の比較



的差異が存在し、この民族的差異は一つの学校の内部に明確に存在しているのである。

民族地域のほとんどの学校の教師と学生は多民族の人から構成されており、民族学院と民族大学もそうになっている。中央民族大学の教職員と学生は、数十にのぼるさまざまな民族から構成されている。そこでは数十の民族文化が融合し、共同的かつ民族性が保持された大学文化が形成されている。統一された大学文化の中で、各民族の教職員と学生は本民族独自の文化を保つ

ている。各民族の教師と学生は自らの民族の服飾をまとい、言語を使用し、歌を歌い、文化娯楽とスポーツ活動を行う。また、同じ民族の人は友達づきあいをし、親しい関係を築いている。つまり、多民族が統一された大学文化の中で、多くの各民族の大学文化が形成されている。各民族の大学文化と多民族が統一された共同的文化の間には、ある程度の民族的差異が存在する。

このような少数民族内部と外部の文化背景の民族的

差異と、同一少数民族学校の外部と内部の文化背景の民族的差異は、同一の文化背景が構成された要素の多民族性によって決定されている。このように統一された文化背景の構成要素とシステムの民族多元性、各民族要素とシステムとの間の民族的差異、各民族要素とシステムが統一された文化背景の間の民族的差異の存在は、中国の少数民族教育の文化背景の複雑さを表す実践根拠の一つとなっている。このことを図で表してみると、以上のようになる。

第5章 情報システムが伝播された文化と民族の地域的文化的差異

国家の近代化情報伝達システムと、ニュースなどのメディアによって伝播されるマジョリティを主とする多民族の共同文化は、少数民族教育の民族的文化背景とある程度の民族的差異を持っている。国家主体によるニュース、ラジオ放送、映像、テレックスと出版は、マジョリティの言語や多民族の共同言語を中心に使用されていることから、伝播する内容と情報はマジョリ

ティを主とする多民族の共同文化と世界的共同文化となっている。ある少数民族の内容と情報、ある少数民族文化を主な背景とする内容と情報は、国家が一日中伝播するすべての情報の中でも、いつも一部分に過ぎない。ある民族地域が伝播する情報量の中でも、少数民族文化を主な背景とする内容と情報も一部分に過ぎず、その大部分はやはりマジョリティを主とし、多民族の共同文化を背景とする情報と内容となっている。

筆者は1995年12月に、雲南省の昆明市で催された少数民族教育国際研討会議に参加した際、会議に参加する代表者たちとシーサンパンナのタイ族(傣)自治州を見学した。ケイコウ(景洪)というタイ族独特の雰囲気溢れたシーサンパンナ自治州の州都では、ニュース、テレビ、ラジオ放送、テレックスで使用される言語形式が主に漢語であった。宿泊したホテルのテレビチャンネルは、ほとんどCCTVと雲南省テレビ局の番組であり、地元のタイ族のものが占める比率は少ない。町に出ても、街頭のラジオ放送と電気店で映し出される映像のほとんどは漢民族のものであった。中国とミャンマーの国境にある勐腊という村に行ったときでも、

図11 近代化情報伝達システムが空間を越えて伝播する文化と、少数民族教育地域の文化との民族的差異

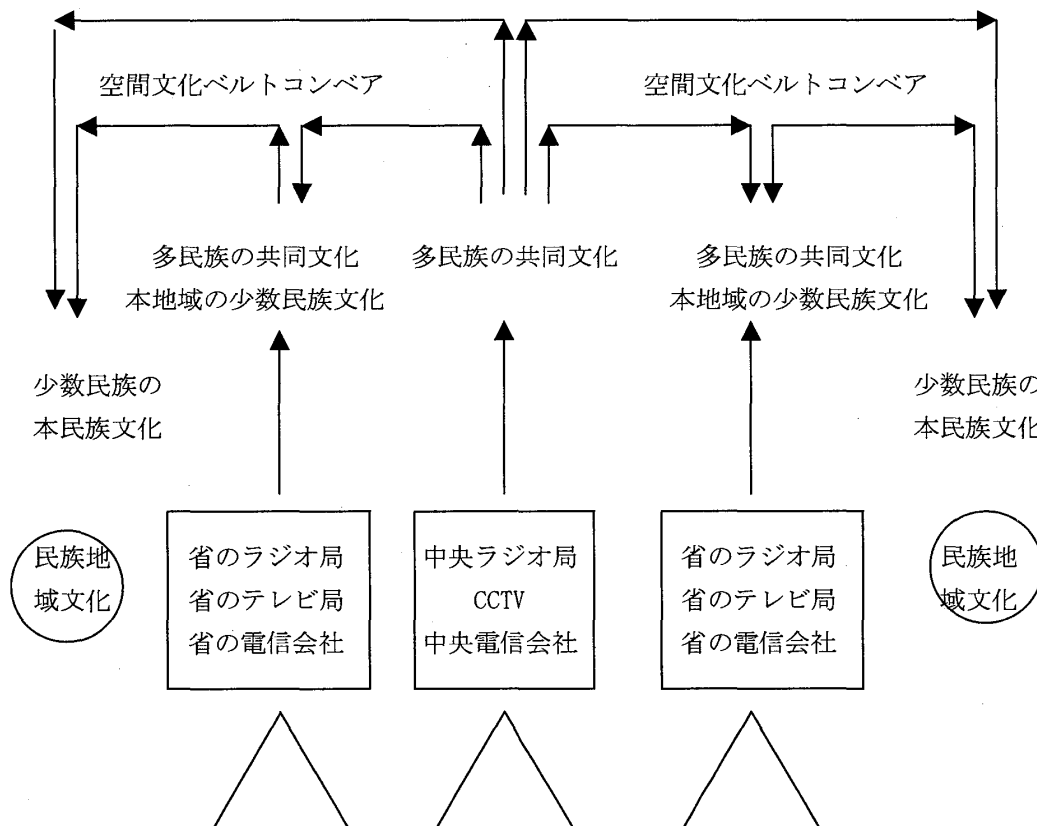
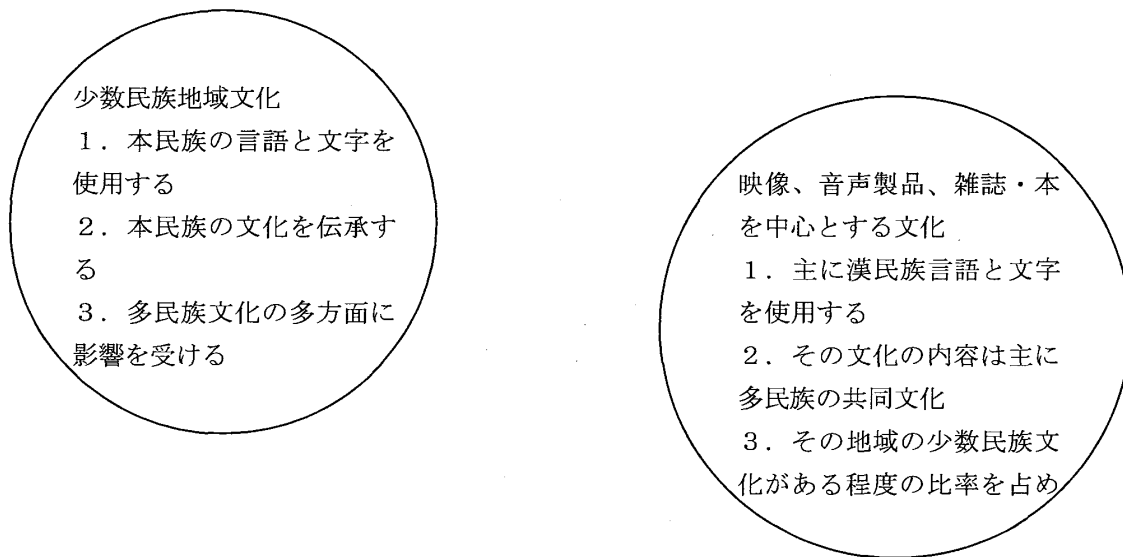


図12：映像、音声製品、本・雑誌を中心とする文化の多民族共同性と少数民族地域の本
民族性の文化との民族的差異



同じように漢民族の番組が多く、地元のタイ族のものは少ない。タイ族と他の少数民族が独自の民族文化を持ち、自らの民族言語を使用しているにしても、近代化情報システムから受け取ることのできる情報のほとんどは漢語で放送されるものであって、その情報と内容は漢民族を主とする多民族の共同文化となっている。このことは、シーサンパンナの民族的地域文化と国家の近代化情報伝達システムの伝える内容と情報には、文化背景においてある程度の民族的差異があることを証している。

東部地域・中原地域の漢民族文化と、辺境にあるシーサンパンナとは地理的な距離からいえばかなり離れているとしても、先端技術を備えた近代化情報伝達システムが伝播する文化情報は、「空間」つまり地理的な距離を越え、確実にシーサンパンナに伝わる。このように空間を超えて伝えられた文化情報は、シーサンパンナの教育と文化に強く影響している。このことから、「空間文化伝達ベルトコンベア」が伝達する文化にも一層の注意を払う必要がある。

しかしながら、シーサンパンナに住む漢民族の場合にはこれとは異なる。シーサンパンナの漢民族生徒は、地元の少数民族文化の強い影響を受けながらも、家庭や学校、地域などでは漢語を使用し、漢民族文化に接触しながら学習する。さらに、彼らがラジオ放送やテレビを通して見聞きするものは、主に漢語と漢民族文化で構成されているものである。シーサンパンナの漢民族に関しては、彼らの家庭教育や学校教育の内的文

化背景にいたるまで、「空間文化伝達ベルトコンベア」が伝播する文化とほぼ一致しており、民族的差異は存在していない。以上述べてきたように、「空間文化」と民族区域における民族的文化との間に、またニュースや出版、映像などの情報が伝播する近代文化と少数民族の伝統文化の間には民族的差異が生じるが、そこには少数民族教育の中でも、特に少数民族の二言語教育の特殊性や困難さ、複雑さなどの問題が顕在化されているのである。

おわりに

本論は、少数民族教育の文化背景の民族的差異の概念を提起するとともに、そこに現出する民族的差異の内容と表現様式を解明することを試みた。中国の少数民族教育の文化背景理論を鮮明に描き出すことによって、その特徴を浮き彫りにし、本質的な理解への一助となることを求めたのである。このことはひいては、中国だけの理解にとどまるのではなく、世界諸国の多文化教育の認識と本質的理解にも広がりをもつ可能性があるものと思われる。

とはいえ、ここで留意しておきたいことは、本論で提起した概念と理論はあくまでも中国の少数民族教育の特徴を描き出したものであり、他国の少数民族教育と多文化教育にはその国々の事情や状況があるため、そのまま適応することができないということである。少数民族教育の文化背景の民族的差異問題について、

いまだその一步を踏み出したばかりであり、今後この問題について研究を深めていきたいと考えている。

※本論は、王錫宏『中国の少数民族教育の基本理論』（民族出版社、1992年）を基に、修正・加筆を加えたものである。

付記：論文の執筆にあたり、佐藤学教授には丁寧なご指導をいただいたとともに、研究を行うためのすばらしい教育的環境をつくっていただきました。深くお礼を申し上げます。

注

- 1) 顧明遠編『教育大辞典 第一冊』上海教育出版社、1990年、37頁
- 2) 主体民族とは、中国で漢民族のことをさす。
- 3) 中国の少数民族自治地域は、自治区、自治州、自治県の三つのレベルに分けることができる。自治県は、内モンゴルでは「自治旗」と呼ばれている。
- 4) 中国の雲南省は、漢民族を主とする他民族の省である。雲南省には、24の少数民族がいることから、「生きる民族博物館」と呼ばれている。一方、黒龍江省、吉林省は、中国の中では黒龍省ほどの他民族の省ではないものの、いくつかの少数民族がいる。
- 5) 顧明遠編『教育大辞典 第一冊』上海教育出版社、1990年、53頁